

き れ い な 空 気 よ い 水 を 求 め て

会報 かんきょう

Vol. 25



photo : 「ロッシー＆バニラ」日本平動物園提供

県内優良施設見学研修会
NECプラットフォームズ(株) 掛川事業所
浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所 …1

環境セミナー
ほんとうの環境問題 …3

会員事業所の取り組み …4

日本平動物園の環境への取り組み …5

かんきょうにゅーす …5



この会報誌は古紙配合率 100%、
白色度 70% の再生紙を使用してい
ます。

「県内優良施設見学研修会」に参加して

■DATA■

平成28年11月14日(月)

①NECプラットフォームズ(株) 掛川事業所 ②浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所

本年度も恒例行事の「優良施設見学研修会」が11月14日に開催されました。

見学企業はNECプラットフォームズ(株) 掛川事業所様と浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所様の2社の見学をさせていただきました。

NECプラットフォームズ(株) 掛川事業所

1. 会社概要

NECプラットフォームズ(株)は、NECグループの社会ソリューション事業をハードウェアプラットフォームで支える中核ものづくり会社です。掛川事業所は、通信機器であるホームゲートウェイ製品、アクセスネットワーク製品、車載電子機器などの多様な製品の開発・生産を行っております。

掛川事業所では、通信事業者とレンタル契約された自社製品のホームゲートウェイ製品を、全国ユーザーから宅配便等で回収し、当事業所内で修理、または効率的に解体・分別する事業を展開しています。そして、この「100%の資源循環を達成するビジネスシステム」が評価され、2012年環境省より「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を受賞しています。このほかにも、これまで、さまざまな環境活動の取組みが評価され、数々の表彰を受けており、2016年度も「環境人づくり企業大賞2015」奨励賞受賞、「平成28年度 緑化優良工場等経済産業大臣表彰」と2つの賞を受賞しました。

2. 環境への取組み

環境への基本取組みとしては、開発・設計段階から廃棄物削減までのすべての段階にて取組みを実施しています。具体的には、

- 開発・設計段階
小型・軽量化による省資源化、資源循環リサイクル等を考慮した「環境配慮型製品の開発」
- 納入段階
「化学物質の管理の徹底」
- 生産段階
CO₂削減のために使用電力状況がリアルタイムにわかるように「工場使用電力の見える化」

●省資源・資源循環

廃棄物削減のために、分別強化により有価化・減容化、またゴマを活用した半田リサイクル等の取組みも行っています。

再生可能エネルギーとして、太陽光発電、風力発電も行い、工場使用電力の一部に活用するとともに、ソーラー街路灯・防犯灯を工場周辺、駐車場に設置し、社員・地域住民の安全性向上への活用も図っています。

地域社会との環境コミュニケーションの面では、自然共生社会を目指し生物多様性イベント、従業員参加の地域貢献活動等にも積極的に取り組んでいました。

3. 感想

製品の設計・開発段階からリサイクルまで、ライフサイクルのトータル的な環境配慮に努め、具体的にグリーン製品開発、環境保全活動、グリーン調達徹底、また、地域住民との環境コミュニケーションの充実も図られて、全社あげての環境管理・保全活動に力を入れていることが十分に感じられました。

浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所

1. 会社概要

浜松ホトニクス(株)は、光の研究と、それを基盤とした製品開発を通じて、光の本質を追求し、そこから生まれる知識を応用することで、更に新しい産業を創成しています。同社の開発した光センサ製品がノーベル物理学賞の受賞に大きく貢献し、高い技術力が評価されています(2002年受賞・ニュートリノの発見、2013年受賞・ヒッグス粒子の発見)。

豊岡製作所は、電子管事業部で、医療・学術分野から産業分野まで幅広く対応した光センサ・光源を目指し、1973年、光電子増倍管(光エネルギーを電気エネルギーに変換する素子)の量産工場として稼働し、光電子増倍管、ランプ(光源)、イメージングデバイス等及びそれらの応用製品の開発、製造拠点になっています。

環境活動においては、さまざまな取組みが評価され、「平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（対策技術先進導入部門）」また、2016年「静岡県産業廃棄物適正処理推進功労者知事褒賞」を受賞しました。

2. 環境への取組み

環境へ基本取組みとしては、開発・設計段階から最終段階の分別・再利用まで取組みを実施しています。具体的には、

●開発・設計段階

環境配慮型製品の省資源化・軽量化を図り、また、容器包装までも踏み込み、分別・リサイクル容易な包装箱に着眼・採用している。

●生産段階

エネルギーとして、発熱量が高く、CO₂排出量が少ないエネルギーへの転換、また新設建屋には、LED照明・太陽光発電・BEMS等を採用しています。未然防止活動としての排水漏洩面では、配管系統・タンク等の改善、及び地震対策等も行っています。

●省資源化

分別活動を促進するために、分別処理場の充実を図るべく表示類の工夫、分別状況がわかるように社内webにて掲載し、「見える化」を実施。さらに、分別精度の向上のため分別の間違い事例を作成し、社内展開も実施しています。

工場内のリユースの面では、設備等の再利用のために、廃棄物部会にて不要物のデータベース化を行い、再利用の推進にも取り組んでいます。

排水に関しては、2014年に最新式の排水処理システムを導入し、全社にて生産から廃棄までの各段階での環境活動に積極的に取り組んでいました。

3. 感想

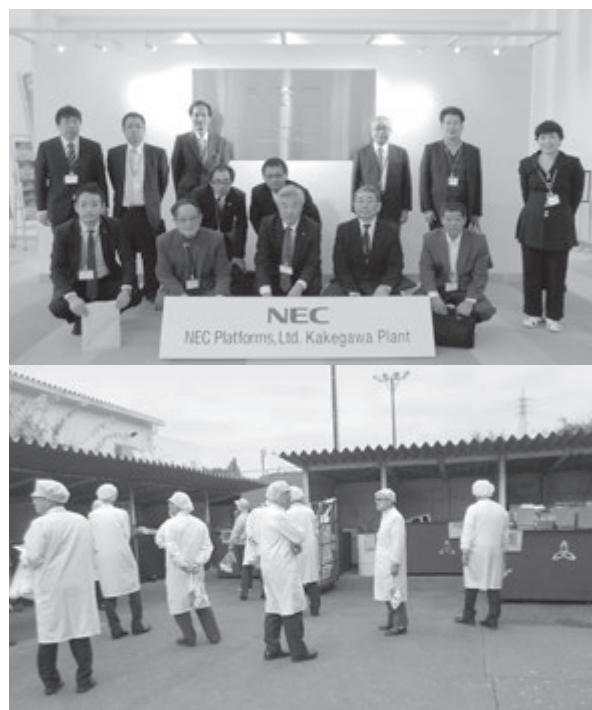
非常に高い技術力で世界に貢献するのみならず、環境配慮製品の開発・設計にも力を入れていました。また、ライフサイクルでの環境保全活動をレベルアップするために、社内web活用による「見える化」等の工夫をし、いろいろな視点から取り組んでいることがわかりました。

おわりに

当日、静岡市環境保全推進協力会の運営委員長をはじめ、多数の方の参加を頂き、それぞれの企業の会社概要・環境への取組み、工場見学及び意見交換を行い、たいへん勉強になりました。環境保全活動である「地球温暖化防止」「省資源化」「資源循環」等は、企業活動のみならず、日常生活の中でひとりひとりが真剣に取り組まなければならない重要課題であり、日々、取組み続けることが、地球環境保全につながっていくものと考えています。

最後に、今回、見学研修会をさせていただきました、NECプラットフォームズ(株)掛川事業所様並びに、浜松ホトニクス(株)豊岡製作所様には大変感謝いたしております。

レポート：(株)小糸製作所 間部三千広



NECプラットフォームズ(株) 掛川事業所



浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所

【写真上】世界最大! 20インチ径の光電子増倍管には「平成28年11月5日 梶田隆章」のサイン。



環境セミナー

Friday, February 3, 2017

ほんとうの環境問題

講師 生物学者・早稲田大学教授 池田清彦氏



テレビ、新聞、雑誌などで活躍されている池田清彦教授をお招きし、「ほんとうの環境問題」をテーマにお話をいただきました。

池田教授は生物学をご専門としながらも、地球温暖化、外来種（生物多様性）問題、エネルギー問題などの社会評論も広く

行われており、テレビでは「ホンマでっか!?TV」ご出演で顔をご存じの方も多いかと思います。

なかなかマスコミやテレビでは言いにくそうな、ちょっと違ったサイドから環境問題を取り上げて、私たちの思い込みを揺るがすような様々な視点からのお話をいただきました。環境問題とは「本当」は何なのか、というお話しは参加者の心を捉えて放さなかったと思います。

まずは地球上でおきた生物の三大絶滅の一つ、全ての生物の8割以上が絶滅したというカンブリア紀に続くオルドビス紀末の大量絶滅の話を枕に、環境問題を様々な時間の尺度（100年単位から数万年の単位）で捉えてみるお話しから始まりました。

- 現在話題になっている地球温暖化は本当なのか？（太陽黒点の減少から、中世、元禄時代に収束した「小氷期」がおきて地球の寒冷化が進むのではないか）、海面上昇も本当に温暖化の影響なのか？
- 人類の生存にとって一番重要なのは「食糧」、次が「エネルギー」。
- 食品の効率から考えると、松阪牛は食料20キログラム相当のエネルギーをつかって1キログラムしかできない。効率から考えると昆虫食がベストで、1.5キログラム相当のエネルギーから1キロの食料がとれるし、昆虫は大きくなるのが早い。
- エネルギーの効率から考えると水力が一番エコ。風力は音や風力の問題（安定しない）など問題が多いが、太陽発電よりは効率が良い。メガソーラーは二酸化炭素を出さないというメリットしかないのではないか。
- 今後はシェールオイルや天然ガスが大きな勢力になる。石油との価格比はあるが、アメリカはエネルギー大国になっていくだろう。

- 日本ではメタルハイドレートを期待しているが、深海に有りコストの問題が残る。地熱発電がベストではないか。ただ、立地の問題があり国立公園内で開発しづらく、地震の問題もある。藻類による光合成で油を作る研究も進んでいるが、まだコストが高い。
- 「生物多様性」は良く耳にする言葉になったけれど、良くわからないと言われることが多い。要は、様々な生物が存在することは良いことだ、ということ。
- 「種の多様性（色々な生物がいること）」と「遺伝的多様性（多様性が小さいと病気などで種が滅ぶ）」のどちらも大事。人間は7万年前にアフリカから出ていった数千人から1万人の子孫なので、非常に遺伝的多様性が少ない。19世紀にアイルランドでおきたジャガイモ飢饉は一種類のジャガイモしか育てていなかったのがジャガイモの病気があったという間に広がって100万人が死亡、100万人が米国へ移民した。今のアメリカを作ったのはジャガイモ飢饉ともいえる。遺伝的多様性は重要で、ハイブリッドは強くなる傾向がある。

などなど、生物の歴史に及ぶお話しから昆虫採集で命を落としかけた体験談まで、まさに疾風怒濤のごとく話題は飛び出し聴衆を引きつけ、博覧強記でうならせる楽しいお話しが続きました。

「環境問題」という言葉に多様な意味合いがあること、多面的なアプローチがあることを考えさせる意義深い講演会となりました。

レポート：鈴木(株) 片山章久



平成27年度 静岡県 地球温暖化防止活動知事褒賞

はごろもフーズ(株) 西林秀晃

平成28年6月4日クリエート浜松にて、静岡県知事褒賞をいただきました。受賞の評価として、工場の連携により主要原料まぐろの使い切り、社員教育による人づくり、地域清掃活動への参加など幅広い分野の活動により、低炭素化へ大きく寄与したことによります。

弊社は、全国の販売店様店頭等やコマーシャルなどで認知され、シーチキンを代表とする缶詰製品を中心とした食品のメーカーです。昭和6年創業で、製造と販売に関しては独自のポリシーにしたがい、全国でご愛顧をいただいております。

製品やブランドは有名です。しかし振り返ってみると、CSRの観点から、環境に関する取組みを社内では体系立てて、実施できていないこと、環境データの取りまとめの必然性に気づき、改善する必要があるりました。

そこで社内委員会を立ち上げ、ISO14001やエコアクション21の導入を検討しました。会社規模からいえばISOがふさわしいとの意見が根強くありました。しかし環境パフォーマンスの把握、審査人のコンサルティング、環境活動レポートによる、活動の把握と、関係者についての報告など、環境マネジメントシステムとしてエコアクション21が優秀であると判断し、活動を開始しました。目指すは低炭素化、そして環境に関する幅広い活動の全社全組織での活動を行うことです。

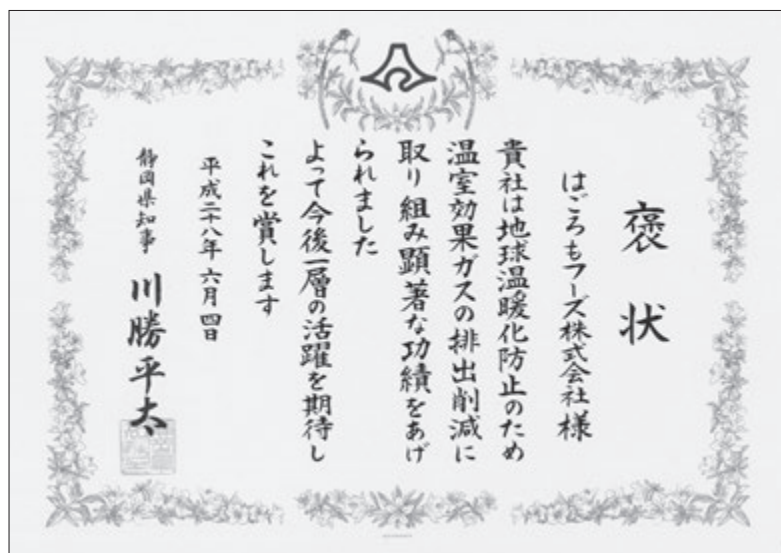
エコアクション21での社内活動で、めざましい成果となっているのが、社員の環境に関する意識

の向上です。社員教育としてeCO検定®受験を推奨し、約100名が合格を果たしました。ただ重要なのは合格だけを評価ポイント

にするのではなく、受験をきっかけに「環境」とはなんだろうと学び、自らが変わることでした。会社において、また生活において自主的な低炭素への取組みが進んでいます。

私たちは「挑戦」を合言葉に様々な課題に果敢に取り組めます。その中で、静岡県知事褒賞をいただいたことは全社員に大きな励みとなりました。また環境省「低炭素杯2017優良賞」も受賞し、弊社への期待はさらに高まっています。

パリ協定発効により、低炭素への取組みはグローバルな課題となりました。環境ファーストの企業へ改革を継続し、良質な製品づくりとともに低炭素社会構築の先達となるべく邁進いたします。



静岡県次世代エネルギーパーク

日本平動物園の環境への取り組みについて

日本平動物園は、動物にも環境にも優しい
再生可能エネルギーを積極的に活用しています。



日本平動物園は、昭和44年の開園以来多くの方々に親しまれてきましたが、近年の動物展示方法や飼育技術を施設に反映させるため、平成19年から6ヵ年かけ再整備事業を進め、野生に近い環境で生き生きとした姿を様々な角度から間近に観察できる施設や、動物たちとのふれあいを通して「命の大切さ」を学ぶ施設を整備し、平成25年にグランドオープンしました。



また、種の保存や動物と自然とのつながりを学ぶことができる愛護教育を開園以来重点的に取り組み、特に最近では、動物にも環境にも優しい動物園を目指し、コミュニティソーラーや水浄化装置（水すまし）、小型風力発電施設（風レンズ風車）など、再生可能エネルギーを積極的に導入し、地球と動物に優しいエネルギーの普及に努めています。



ホッキョクグマやアムールトラ、オランウータン、ペンギンの生態を通じ、地球温暖化問題について学べる「環境学習プログラム」を9種類用意し、環境の大切さを学べる施設を目指しています。

日本平動物園ホームページからPDFをダウンロードできます
http://www.nhdzoo.jp/learning_program/



風レンズ風車



コミュニティソーラー



水浄化装置

●各事業所の皆さまが福利厚生の一環として当園を団体でご利用いただける場合は、イベントグッズの貸出やお子様プレゼント等、様々な特典をご用意していますので、是非ご来園ください。

かんきょうにゆーす Kankyou News

事務局からのお知らせ

通常総会の開催について

通常総会の日程が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 日時 平成29年5月12日（金）
2. 会場 ホテルサンルート清水
3. 時間 理事会 14時30分
通常総会 15時00分
講演会 15時40分
意見交換会 17時10分

清水区三保クロマツ植樹地

下草刈りの実施【第2回】 10月22日（土）

昨年同様、今年も6月が雨で中止になった為、天候にも恵まれた今回は、無事行われたことが安心に繋がり、昨年2月に植樹したクロマツの成育している姿も下草刈りを通して確認することができました。

土手添いには草が生い茂り作業に手間取りはしましたが、23社・125名の参加者が汗を流し1時間ほどで作業が終了しました。



【平成29年3月31日現在会員数】 154事業所

随時会員を募集しております。
詳細は事務局までお問い合わせください。

【発行】 静岡市環境保全推進協会の
【事務局】 〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡庁舎環境局環境保全課内（新館13階）
TEL054-221-9373 FAX054-221-1186
ホームページURL <http://www.shizuoka-kankyosuishin.jp/>